

らじみさらダボール子育て情報

「お絵かきは言葉の源泉」
平成28年6月1日号
板橋富士見幼稚園

絵を描く機会を大切に

2歳を過ぎる頃から、子どもは今までの体験を思い浮かべながら、自分の頭の中に表現したいイメージを描き出します。落書きは生後一歳を過ぎたころから始まりますが、このころの絵は、「なぐり書き」といって、書くことのおもしろさが中心です。クレヨンやマーカーを手を持つと、ペン先から色の糸のような筋が出てくる事が不思議な現象に感じ、好奇心がかき立てられ、継続しようとする心理が働きます。子どもには原理が分からないため、不思議な出会いとなるのです。

でも、一歳半が過ぎると、「あれを描きたい」といった、描こうとするものがはっきりとイメージされてきます。発達の特長は、このころの絵を見て、描く線の始まりと終わりが繋がって描けていることを、発達の上で重視します。つまり、順調に発達している一つのポイントとして捉えます。

子どもが頭の中で想像し、描こうとしている「物」があるということは、「物」を認知（花・犬・自動車など）する力が育っている証しとして判断します。自分の周囲の物に名前があり、その物に強い印象を抱き、心が動かされることは、外の世界を広げようとしている証拠なのです。



単純にお絵かきと言っても、描く中に深い意味があるのです。

幼児期にたくさん絵を描くことは、その子の想像性を豊かなものにするだけでなく、世界観を広げる栄養素となります。

テレビやゲーム機器の遊びも、時代の流れとして取り入れていくことは大切ですが、クレヨンやクレパスを使って、描く楽しさや色の重なりを発見させ、自分のイメージを表現させてあげることが大切だと思います。

想像する力は、物を見立てていく発想力にやがて生まれ変わります。また、物と物を繋げ想像する力は、頭の中で文を構成する力となり、やがて作文の上手にかける子となって育つのです。

少し難しくなりましたが、要するに、イメージを豊かにふくらませ、そのイメージを画用紙にクレヨンやクレパスで描くことを積み重ねていくと、知的な能力が育ってくるというお話です。

今日から、たくさんお絵かきを楽しませて下さい。はじめは、落書きばかりしていますが、次第に形になっていきます。形が描けるようになったら、いろいろ語り合ってみて下さい。

2歳からの思い出帳として、大切にとっておいてあげるといいですね。お母さん。